



NY原油続落、96ドル 1週間で3割下落

【NQNニューヨーク=張間正義】15日のニューヨーク・マーカンタイル取引所（NYMEX）で原油先物相場は大幅に続落した。WTI（ウエスト・テキサス・インターミディエート）で期近の4月物は前日比6.57ドル（6.4%）安の1バレル96.44ドルで取引を終えた。中国で新型コロナウイルス感染が再拡大しており、需要減少の観測が広がった。投機筋から損失覚悟の売りも出て下げに拍車がかかり、一時は1バレル93.53ドルと3週間ぶりの安値を付けた。

中国では新型コロナの新規感染者数が足元で過去最多を更新した。大都市で事実上の都市封鎖（ロックダウン）が広がっており、経済活動の鈍化に伴う原油需要の減少観測が強まった。

WTIは7日には1バレル130.50ドルと期近物として2008年7月以来の高値を付けていた。わずか1週間で3割近く下落し、投機筋が買い持ち高を圧縮する動きも活発化した。

ニューヨーク金先物相場は3日続落した。ニューヨーク商品取引所（COMEX）で取引の中心である4月物は前日比31.1ドル（1.6%）安の1トロイオンス1929.7ドルで取引を終えた。米長期金利が上昇する場面では金利の付かない金の投資妙味が薄れた。原油相場の続落で物価高懸念がやや和らいだことも、インフレに強い資産とされる金の重荷だった。



週明け14日の指標原油は、WTI先物が前

WTI 103.01ドル ブレント 106.90ドル

週明け指標原油大幅下げ

週末比が6ドル32セント安の103ドル1セント、北海ブレントが5ドル77セント安の106ドル90セントと、いずれも大きく値を下げた。WTIは2月28日以来2週間ぶり、ブレントは3月1日以来の水準。WTIは一時100ドルを割る場面もあった。

前週は9、10日の続落でWTIが17ドル68セント、ブレントは18ドル65セント下落。11日にはイラン核合意交渉の難航が伝わり再上昇していた。ただ中国の新型コロナウイルス感染増、ロシアとウクライナの停戦交渉への期待感などで、週明けは軟調に転じた。

今週は米国の利上げが見込まれており、金融引き締めはリスク商品とされる原油市場には重しになると予想される。

ウクライナ情勢が厳しさを増すなかで、原油市場がいったん峠を越えたのかを見極めるうえで、週後半の動向が注目される。



シカゴ穀物概況・15日

【シカゴ支局】15日のシカゴ市場で小麦が大幅に反発した。供給減を警戒する買いが入った。主産地ロシアが自国の食糧保護のためユーラシア経済連合（EAEU）の加盟国を対象に小麦など穀物の輸出を一時制限すると伝わった。ウクライナの今春の穀物の作付け面積が約4割減るとの調査を手掛かりに一段の需給逼迫を見込む買いが入った。小麦5月物終値は前日比58セント高の1ブッシェル=11.5425ドル。

大豆は下げた。中国で新型コロナウイルスの感染が再拡大し、需要減を見込む売りが出た。5月物終値は同11.75セント安の16.5875ドル。

トウモロコシは上げた。小麦につれ高した。トウモロコシの主産地ウクライナの減産懸念も買いを支えた。5月物終値は同9.75セント高の7.58ドル。



アルゼンチン、大豆粉・油の輸出停止 輸出税引き上げか

【メキシコシティ=清水孝輔】アルゼンチンの農牧漁業省は13日、大豆粉と大豆油の輸出に必要な手続きを停止すると発表した。アルゼンチンは2020年に経済回復策として大豆製品の輸出税を一時的に下げている。同国の食用油の業界団体は政府が輸出税を再び引き上げようとしていると警戒を強めている。

農牧漁業省は13日付で一時的に輸出の登録を停止した。再開する時期は明らかにしていない。アルゼンチンは20年10月に大豆などの一部の輸出税を一時的に引き下げた。大豆は税率33%から一度30%まで下げ、その後段階的に33%まで引き上げた。大豆粉と大豆油は33%から一度27%まで下げ、段階的に31%まで引き上げていた。

アルゼンチンの食用油の業界団体は政府の決定を受け、「アルゼンチンの輸出の利益に反する」と声明を出した。政府が輸出の登録停止を決めたのは大豆粉と大豆油の輸出税を再び33%まで引き上げる意図があると指摘した。アルゼンチン政府は輸出税に関しては言及していない。

ロシアによるウクライナ侵攻を受け、大豆関連製品の価格は国際的に上昇している。米農務省によると、21～22年度の世界全体の輸出のうちアルゼンチンは大豆粉で41%、大豆油で48%を占める見通しだ。アルゼンチンが輸出税を引き上げれば、国際価格にさらなる上昇圧力がかかる可能性がある。

製品値上げ

エチレングリコール類50円以上

三菱ケミカル

三菱ケミカルは、4月1日納入分からモノエチレングリコール、ジエチレングリコール、トリエチレングリコールを1キ

苧当たり50円以上値上げする。国産ナフサ基準価格は原油価格上昇の影響を受け騰勢を強めている。ユーティリティー費や物流費、固定費などの上昇も避けられない状況。自努力のみで対応するのは困難なため、価格を改定せざるを得ないと判断した。

PE45円以上

日本ポリエチレン

日本ポリエチレンは、4月1日納入分からポリエチレン（PE）を1キ苧当たり45円以上値上げする。国産ナフサ基準価格は1キ苧当たり9万円をうかがう水準まで上昇すると見込まれ、ユーティリティーなどの諸費用も増加している。これらを自努力のみで吸収するのは困難で、価格を改定せざるを得ないと判断した。

PP45円以上

日本ポリプロ

日本ポリプロは、4月1日納入分からポリプロピレン（PP）を1キ苧当たり45円以上値上げする。ナフサ価格や副資材などのコストが上昇。自努力のみで吸収するのは困難なため、価格を改定せざるを得ないと判断した。

MEK卸値上げ

4月1日 46円以上

出 光

出光興産はインキ溶剤や接着剤、樹脂加工溶剤などに用いる化学製品メチルエチルケトン（MEK）の卸価格を4月1日から、46円以上引き上げる。

ロシアのウクライナ侵攻を受けて原油価格が高騰し、MEKの主要原料となる国産ナフサの基準価格も上昇。4～6月期以降は約8万3000円程度の高水準が見込まれるといい、コスト低減の取り組みだけでは吸収し切れないと判断した。